

No. 2 9 5

全 仏

1 / 59

ルンビニー復興を支援しよう



釈尊生誕の地ルンビニー園 マヤ夫人が産湯に使われた池
(松本栄一氏撮影)

全日本仏教会

59年の新春を迎えて

年頭挨拶

全日本仏教会会長 金子 日威



金子会長

新年に臨んで皆様の御多幸と撓まざる
仏教活動への精進に対して、衷心より感
謝と敬意を捧げます。
顧りみますと老衲、会長任期間大過な
く今日に到り残す所僅かの日となりま
したが、絶大なる御協力により不敏をさ

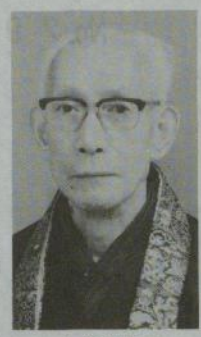
らすことのない事は誠に喜びに堪え
ません。就中、第三十回全仏東京大会が
自坊池上に於て開催された事は深く印象
に残る処であります。

今や仏教ばかりでなく広く宗教の世界
は国際的な交流が歳と俱に繁く且つ深ま
りつつあります。これは全宗教者がその
使命に基いて人類の平和と幸福に如何に
挺身しているかの証左でありましょう。
私どもも亦夫々の宗団活動こそ大事で
ありますが、仏教者としての全一運動に
も眼を覆うことは許されません。

任期中少しでも前進せねばならない秋
に省みて力の足らざりし事を痛感しま
す。何卒大懸案たる印度仏蹟顕彰に就ても格
別の御協力を願って已みません。

世の中安穩なれ

全日本仏教会理事長 本多 賢純



本多理事長

れ「世の中安穩なれ、仏法弘まれかし」
と希念される現実です。

近代の精神史は洋の東西を問わず、自
我を肯定して、その自我の拡充を文明文
化の基底と思ひこんで来ました。
自我を基底とする自己主張は利害計算
に依つて、必ず排他となります。

「鬼に金棒」という言葉がありますが、
鬼の心は排他の心です。排他の心を是認
して、他を敵視する自己中心の人間の集
団が国家である限り、世の中は安穩とな

らず、平和の世界は顕現しません。かつ
て鬼畜米英と叫んだ時は、叫んでいる自
身が鬼畜であることに気付きませんでした。
た。

「平和の世界は拝む手に」です。
排他の心を懺悔し、無慚無愧の自身を
悲泣する心底からのみ、平和の心は開か
れます。

「仏法は無我にて候」と先覚は喝破され
ました。鬼の心は何時金棒（核兵器）を
振るうかわかりません。
仏心こそ、平和の心です。それなれば
こそ、「世の中安穩なれ、仏法弘まれか
し」と切実に願われます。

謹賀新年

財団法人

全日本仏教会

会長 金子日威
副会長 森寛紹

常務理事 出口常順
常磐井堯棋
中川貫道
林亮海
藤前東時
沼田恵範
本多賢純

理事 阿部龍正
中川祐俊
中川貫道
林亮海
藤前東時
沼田恵範
本多賢純

清田寂円 塩入亮達
阿部龍正 小沢照禧
中川祐俊 武田翁彦
中川貫道 豊原大潤
林亮海 五辻実誠
藤前東時 野口浩堂
沼田恵範 永井孝道
本多賢純 岩崎宗秀
山本覚二 小西日静
山本覚二 小西日静

理事会、常務理事会開く

全弘 同和問題など審議

去る十一月十七日午後一時から、東京グランドホテルで、「同和問題に関する理事会」及び常務理事会が開催された。

理事会は本多理事長三掃依文唱和、挨拶、矢萩事務総長代行開会の辞につづいて、磯山庶務部長から同和委員副委員長の藪光龍（高野山真言宗）、蓮池瑞旭（浄土宗）、中村秀雄（曹洞宗）の三師が紹介され、追加議案として「事務総局機構検討委員会規程（案）」の承認を求める件」の提案が了解された。次に議事録署名委員に來馬規雄、江連俊則の両師を選出、議事を開始した。

協議事項

- ① 同和推進のための事務局体制の強化について
- ② 都道府県仏教会における啓蒙活動の



ひらかれた全弘理事会

推進について
③ 同和に関する諸会合への理事の参加について

最初に那須組織局長から、同和委員会がつくられた契機、活動内容、さらに同和研修会の内容、部落解放同盟からの糾弾等について詳しい経過報告が行われた。つづいて副委員長の三師から、同和問題の取り組みに対して具体的な提言が行われ、協議に入った。出席者からは種々の意見が寄せられ、①については事務総局機構検討委員会で審議し、審議終了の事項から理事会にはかって実行に移す、②は実施案について具体的準備をすすめる、③については、この理事会が、同和委員会からの要望をうけ、理事会、常務理事会の議を経た、同和推進にとりくむため開催された、寄付行為にのつとつた理事会であることが確認された。

- 議案第一号「事務総局機構検討委員会規程（案）」の承認を求める件
- 豊田総務局長から説明。附則を追加して原案通り承認された。
- 龍山事務次長閉会の辞で、理事会は終了した。

常務理事会は午後三時から、同じ東京グランドホテルで開かれた。
本多理事長三掃依文唱和、挨拶、矢萩事務総長代行開会の辞につづいて、議事

録署名委員に高藤法雄、貝山宣泰の両師を選出して議事に入った。

議案第一号「昭和五十九年度予算（案）」の大綱について承認を求める件

龍山事務次長、中村財務部長から説明。事務局原案を来年二月の理事会に提出することを承認。

議案第二号「世界宗教者平和会議（WCRP）」日本委員会の財団法人化終了時における本会の協力体制について意見を求める件

豊田総務局長、磯山庶務部長から説明。活発な質疑応答の後、継続して更に協議することとなった。

議案第三号「靖国神社公式参拝について本会の対応策に関し意見を求める件」
豊田総務局長から説明。質疑応答の後、本会としては、これまで通りの見解を基本線として対応してゆくことになった。

報告事項

- ① 第三十回記念全日本仏教徒会議東京大会の報告
 - ② 会長・副会長推戴委員会開催の報告
 - ③ 第一回事務総局機構検討委員会開催の報告
 - ④ 税務委員会報告
 - ⑤ 日本海中部沖地震並に山陰豪雨災害見舞の報告
 - ⑥ パリ・ポロブドール仏跡巡拝の旅について
 - ⑦ 全日本仏教会囲碁大会について各担当局長、部長から報告。
- 龍山事務次長閉会の辞で、常務理事会は全ての日程を終了した。

理事

森田 長谷川 靈
石井 片山 有雄
石生 松尾 全弘
麻野 渡辺 宗峯
浅野 加藤 海晃
盛井 板垣 隆寛
來馬 規雄 榮
塚田 賢照 土持 良栄
高倉 正信 沼田 惠範
高島 廣勝
宇佐美 諦 練 鶴飼 泉道
廣川 芳雄 橘 感月
監事 植松 威 神野 真一

事務総局

東京都港区芝公園四一七一四
〒105〇三（四三七）九二七五
事務総長 矢萩 信顕
事務次長 龍山 哲成
総務局長 豊田 英世
組織局長 那須 公順
国際文化局長 川井 匡俊

関西事務局

京都市下京区烏丸通七条上ル
常葉町
事務総長 真宗大谷派宗務所内
五辻 實誠
職員一同

他 職員一同

これからの日本経済と寺院運営

経済評論家 竹内宏氏に聞く

新春インタビュー



—竹内宏氏—

新年を迎えましたが、今年はどうな年になるのか、また時代はどんな方向に流れていくのか、不安を感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、宗教に対しても深いご関心をお持ちの経済評論家・竹内宏氏（日本長期信用銀行常務取締役調査部長）に、日本経済や寺院運営について、川島文化部長がインタビューしました。

（文責・文化部）

あと十年は低成長

最初に、日本経済の今後の見通しについてお聞かせ下さい。

僕は歴史はくり返すと考えます。現在の状態は、一九二〇年代のくり返しです。

あと十年は、今と同じような低成長が続くでしょう。

今から十年前、高度成長期は、皆、物欲に狂っていた時代です。人々は所得が

上がる自動車を買いました。すると自動車工業が発展し、それに関連して鉄鋼や石油などの企業も発展しました。それはすごい勢いだった。

カラオケバーとゴルフ場との循環関係

現在は、物が十分に満ちています。しかし、何か生活に張りがない。人々はこぞってカラオケバーに行きます。カラオケバーの経営者は所得が上がるからゴルフに行く。するとゴルフ場のキャディーさんは所得が上がってカラオケバーに行く。このようにカラオケバーとゴルフ場の間ばっかりで、お金が行ったり来たりしています。

十年前だったら、カラオケバーもゴルフ場ももうかれは設備投資をしたはずで。しかしもう充分に大きくなり、これ以上拡大できなくなってしまったわけです。そこで経済のサービス化が始まったということですね。

もう一つ見落せないのは、経済の高度成長が、人々の心もすっかり変えてしまったことです。石油化学工業等の発展で

国中の美しい海岸が、またたく間にコンクリートの固まりになっていく。人々はそれをよしとした。朝から晩までせっせと働いて、親子の対話も夫婦の対話も無ければ、物質的にみるみる豊かになってゆくのを楽しんだ。こういう時は変化が平気なんです。皆、一せいに洋食を食べだし、家の中も洋風化していった。

また、大家族が核家族となる。このように人間の生き様が全く変わっても気づかないほど猛烈な変化の中で、けっこう楽しかったのが高度成長期だったわけですね。

現在は、技術進歩といえばエレクトロニクス位のもので、あれは文房具の機械化といった程度でしょう。一方で、原油価格の大幅な値上りなどもあって、日本はもう高度成長などできなくなってしまうわけですね。

次に人々の魂を変えるような急激な技術革新が来るまでは、お休みということですね。あと十数年たてば、コンピュータが非常に発達して、また物欲に狂う時代が始まるかもしれません。

いまは養生の時代

つまり、経済の低成長期は、養生の時というわけですか。

そう、今は養生の時代なのです。人間の社会にとって最も危険なことは、技術進歩に人々の心が追いつかないことです。そうした時に流血の惨事が起こる。成田空港の問題などその典型でしょう。これから、遺伝子転換の技術が工業化された

したら、命をかけて反対する人が出てくるかもしれない。コンピュータを使つて老人をロボット処理できるようにしたら、これも命をかけて反対する人が出てくるだろうと思いますね。

そうしたことが起こらないように、しばらく養生が必要なわけです。

—— 経済が低成長の時代には、人々は何を求めるようになるのでしょうか。

高度成長期には、どこの会社でも部長とか課長などのポストが、十年間で二倍半ふえました。今はほとんどふえませんが、役職者になるチャンスが非常に少なくな

宗教にはよい時代にはよい時代に

—— 宗教にとつては、これからの時代はどうでしょうか。

宗教全体にとつては、これからは大変によい時代といえます。誰もが、何か満たされないと感じているわけです。例えば古い産業など、年間の売り上げが二兆円とか三兆円といった規模ですよ。実際どんな雑誌を開いても、だいたい星占いなどのコーナーがあるでしょう。

つまり現代は、不安の時代なんです。例えばサミット会議。主要国の大統領や首相が、特に何か決めるわけでもないのに集まる……。これこそ不安の時代の象徴ですよ。

—— 先生はこれまで書かれたものの中で、高齢化社会における宗教の重要性を説かれています。

宗教はコストなしで魂が救えます。福

つてしまったわけです。そうするとどうなるのか。

彼は会社中で一番ゴルフがうまいとか、釣の名人だとか、皆そういうところに名誉を求めようになります。そうすると文化がどんどん高まっていく。誰もが、パイオリンを弾いたり、絵を描いたりするようになる。つまり今は、文化が高まる時代なんです。これは大正から昭和初期の頃つまり一九二〇年代によく似ています。経済が低迷し、文化が発展した時代……。

社というのは、全てコストがかかるんです。今後ますます社会の高齢化が進むと、我々の老後は、惨たんたるものになります。もう国家財政ではささえきれません。そうなったらどうするか。互いに宗教心を持って、老人同志で助け合わなければやってゆけなくなるでしょう。それ位すさまじい社会が、もうそこまで来ているんです。

生活水準が上がらずに、貧しくなつてゆきながら、どうしたら張りのある人生を送れるか、張りのある晩年を送れるか、宗教以外考えられません。

—— 今の仏教教団なり寺院について、運営面で何かお気づきの点を聞かせて下さい。

人間は宗教心を持っていてもヒエラルヒーは求めます。資本主義社会では、金

もうけに成功した人が、出世してゆくわけです。一方、宗教活動は本来的にもうけにはなりません。しかし、そうしたもうけにならないことを一生懸命やった人に対しては、名譽だけはしっかりと与えなければならぬでしょう。新宗教とよばれる各教団は、見事にそれをやっていますね。

ふつうのお寺では、よく寄附の金額などが掲げられたりしていますが、あれももう少し抽象化したほうがよいと思います。そして檀家の間のヒエラルヒーを確立していったらどうでしょうか。その際、茶道や花道のやり方などが参考になるかもしれませんし、書道や囲碁のように各檀家に級や段を授けるのも一つの方法でしょう。

カソリックなどは、地区の教会の中にも、ちゃんと信者のヒエラルヒーがあると聞いています。

—— 今の寺院のあり方については、どうお考えでしょうか。

現代人の多くにとって、お寺は遠い存在です。たとえ自分がかかえている問題を解決してくれるのが宗教だと思ってもね。気持の上で遠い所へ行くのはずかしいですよ。お寺の門をたたくのは、ちょうど精神科医に診断を受けに行くと同じ位、抵抗がある。つまり、自分のごくつまらない具体的な悩みなど、とても言いだせない雰囲気がお寺にはあります。もつと高度な宗教的悩みなら別でしょうが。

言いかえるなら、お寺が世俗へちつと

も出てこないということです。宗教心は持っていないも、どうお寺と触れたらよいか、その手続きがわからない人が多いと思いますね。

もつとオープンな体制とつて欲しい

—— 最後に、これからのお寺や教団を運営してゆくために、何か提言をお聞かせいただけますか。

経済が低成長の時代は、人々の多くが生きる望みを持ちにくい時代といえます。そうした中で、お寺は、もつとオープンな体制を取ってほしい。ふと迷った時に気軽に入れるような。そのためには普段カルチャーセンターなどをやるのも一つの方法でしょう。

現在、都市部などでは、経済的に潤っているお寺もあると聞きますが、これは一般の人たちの不安な気持ちの反映だと思えますよ。お寺さんは、時代が危機の時こそ活躍の場なんです。医者と同じで健康な時はあまり用がない。

日本の仏教は、とても抽象的で戒律があまり無く、おほかたで論理的な宗教だと思えます。しかし、これからの時代を考えると、仏教界全体として、カソリックまでとは申しませんが、やはり世界的視野に立った、ある程度どぎついと聞かれるような戦略が、ぜひ必要です。

—— どうも長時間にわたって、ありがとうございました。

全日本仏教教団が全一行動を組織して以来、三十年余を経過する。当時は極めて画期的な歩みよりであったに違いない。しかし、この組織も年月を経るに及んで前進的であるべき事態から変貌し愈々、教団エゴを剥き出しにし乍ら、無味乾燥な大会、海外交流、実質を伴わない税務対策等に終始したのではないか。当然、厳しい点検と反省をしなければならぬ一時期と思う。

それにしても加盟教団の事実上のエネルギー源になる問題が提言された事があったのであろうか。いたずらに教団首脳部の社交場と化した事でなかったらうか。種々なる問題を見直すべき折も折、町田師の発言は組織への大きな警鐘であった事は、すなおに認めなくてはならない。その過中において生れた同和委員会は確かに僅かな一握りの集りではないが、この全日仏組織を改めて認識し再生を願望する熱い思いの同志集団である事を強調したい。

差別は社会悪だという浅薄の論理では、差別ととりくむ仏教者としては失格である。「自らを抉る」「自ら光をあてる」、事実に起たねば仏教者たりえない。——とすれば、まず我々の構造に鞭を入れねばならぬであろう。教団組織下に組みこまれた一人々々のもつ宗教への不信、矛盾の音が反映され除去されていく方向性をもたない限り、権力集団化されていく危険が実感される。「教団護持」という美名で見えなくさせられている事実、「師匠万

本来の僧侶へ回帰を

全仏同和委員会の歩み

全仏同和委員会委員長 鷲山 諦住

であり「平等」理念からの欠落者である。「差別即平等」とは差別を認めぬ許さぬ、平等である事も明らかに捉えねばならぬ問題であろう。法界からみる特権視覚では大衆を無知蒙昧にしか見えないのである。緋の衣の体臭に酔う身分には大衆の苦惱は袖の長さで拭いさられる様な錯覚さえ起しかねない。明鏡止水、明窓浄机と嘯く方々には、平等が「自らも平等」の中にある事実感から遠いのであろうか。とあれ全日本仏教会に加盟されて

能」と人間を見る目で覆われていく事実。「悟り」という道までが栄達という甘き蜜によって歪められていく事実、それぞれ枚挙に暇がない。しかしそれでも見えていっているのだけでも手がけなければならないだろう。

二回に亘る同和研修会（高野山・比叡山）第三十回全仏大会第三部会（人権と教化・伝道）等で確認された一つ一つは見える事実である。これらを覆う事は、正道ではない仏教者の使命放棄

題として自らの姿勢に問うていく事である。宗教による問題対応の場ではない、他宗他派への批判を超えて現実を厳しく実感しながら一人々々の証しを示すべき場が出て来たのである。自らの選ばれた道、宗祖、開祖の生き方を問い尋ねつつ、自らの甘えの構造を正さねばならない。

天子天台、公卿真言、公方浄土に、禪大名と巷に跋扈させて尚、特権的身分意識を助長せしめている事も気づくべき段階である。「上藤」「下藤」、「狺下」「台下」「天牌」「宣言」、「結果」「勅使門」「寺格」「僧階」のまかり通る事実は、秩序でも区分でもない、仏、法、僧の三宝の前には何の必然性ももたない、世法の論理ではない。それから派生する特権意識は何時の時も他人を裁き続けているのである。だから過去帳に記載される諸事実が差別と捉えられても判然としないのである。

あらためて記したい、「同和問題にとりくむ同和委員会組織」とは、自らの教団の墮落性を追求し、本来の教団、僧侶への回帰を願望する組織である。それがためにも「平等」が形而上学の問題でなく、「口だけは仏法尊し」というけれど差別あらわに人をあしらう、事実を糾しつ、すばらしき莊嚴、仏国土に向って精進する決意と展望をもつものである。

謹 賀 新 年

曹洞宗宗務庁

管 長	梅田 信隆
宗務 総長	永井 孝道
参 議	志保 見道雲
参 議	若槻 修道
教学 部長	桑原 眉尊
総務 部長	鎌原 佑元
財政 部長	細川 祐葆
人事 部長	山崎 正道
伝道 部長	来馬 規雄
出版 部長	太田 薫一
教化 部長	小田原 利仁

〒105 東京都港区芝二一五一一
〇三(四五四)五四一一

浄土真宗本願寺派

門 主	大谷 光真
総 長	豊原 大潤
総 務	藤岡 義昭
同	日谷 周暎
同	黒山 秀行
同	武野 以德
同	平林 暁祐

〒600 京都市下京区堀川通花屋町下ル
本願寺門前町
〇七五(三七七)五一八一

真宗大谷派

宗務 総長	五辻 實誠
参 務	細川 信元
同	本間 義博
同	藤原 俊
同	木越 樹
同	高浜 純雄

〒600 京都市下京区烏丸通り七条上ル
常葉町七五四
〇七五(三七七)九一八一

天台座主

山田 恵諦

天台宗務庁

宗務 総長	清田 寂円
参 務 長	田中 耕順
参 務 長	池月 孝文
参 務 長	北角 円澄
参 務 長	神原 彰敬
参 務 長	即真 尊龍

〒520-01 大津市坂本本町一七七一一
〇七七五(七七九)〇〇二二

謹 賀 新 年

日蓮宗宗務院

管 長 金子 日威

宗務総長 遠藤 日護

宗務副総長 望月 一靖

企 業 合 持 田 貫 宣
画 部 長

庶務部長 永倉 嘉文

財務部長 神 部 鍊 紳

教務部長 伊 藤 如 顕

護 法 部 長 矢 野 成 善

現代宗教 研 究 所 長 宮 崎 英 修

日蓮宗 新 聞 社 社 長 森 惠 遠

東京都大田区池上一三三二一五
〒146 〇三(七五二)七一八一

真言宗智山派宗務庁

総本山智積院法務所

管 長 小 峰 順 誉

宗務総長 小澤 照 禧

教 学 部 長 高 野 一 能

總 務 部 長 堀 井 隆 俊

教 化 部 長 吉 野 快 弘

法 務 部 長 佐 藤 良 盛

出 張 所 長 小 峰 一 允

御 遠 忌 勸 募 部 長 岡 本 實 良

京都市東山区七条東瓦町九六四
〒605 〇七五(五四一)五三六一

真言宗国分寺派

大本山国分寺

管 長 西 口 公 教
座 僧 正

宗務総長 足 立 有 教

寺 務 長 合 田 和 教

大阪府大淀区国分寺一六二一八
〒531 〇六(三五二)五六三七代

浄土宗宗務庁

浄土門主 藤 井 實 應

宗務総長 武 田 奇 彦

宗 務 庁

京都市東山区林下町四〇〇
〒605 〇七五(五二五)三三〇〇
東京事務所
東京都港区芝公園四一七一四
〒106 〇三(四三六)三三五一

和宗総本山四天王寺

管 長 奥 田 慈 応

執 事 長 森 田 禅 朗

大阪府天王寺区四天王寺一
一〇一八
〒543 〇六(七七二)〇〇六六

謹 賀 新 年

総本山金剛峯寺
高野山真言宗宗務所
御遠忌大法会事務局

座長 森 寛 紹
管 長 阿部野 竜 正
副 監 麻生 恵 光
執行 近 藤 説 巖
常務 大 月 俊 信
執行 民 岡 哲 雄
常務 和 田 有 玄
執行 松 村 勝 禪
常務 中 野 良 戒
常務 佐 々 木 智 海
常務 加 藤 融 光
常務 北 川 智 城
常務 橋 爪 良 恒
常務 佐 藤 心 雅
常務 柴 田 弘 仁
常務 近 藤 覚 玄
和歌山県伊都郡高野町高野山
〒648-02 〇七三六五(六二)〇一一

真言宗豊山派宗務所

管 長 小松原 賢 誉
宗務 中 川 祐 俊
執行 吉 田 俊 誉
常務 川 田 聖 定
財務 岩 脇 宏 信
教化 鴨 志 田 秀 純
弘法大師千百五十年
御遠忌記念事業委員会事務局
事務局 長 市 原 雄 忍
東京都文京区大塚五十四〇一八
〒112 〇三(九四五)〇六三九

総本山 仁和寺
真言宗御室派宗務所

管 門 長 跡 小 林 隆 仁
執行 石 井 玄 妙
常務 富 樫 了 清
執行 堀 智 範
財務 手 嶋 千 俊
華務 堀 智 範
京都市右京区御室大内三三三
〒616 〇七五(四六一)一一五五

法 相 宗

管 長 多 川 乘 俊
宗務 多 川 乘 覚
奈良市登大路町四八
大本山興福寺内
〒630 〇七四(二二)七七五五

臨濟宗妙心寺派

京都市右京区花園妙心寺町
〒616 〇七五(四六三)三二二一

黄檗宗大本山萬福寺

管 長 村 瀬 玄 妙
宇治市五ヶ庄三番割三四
〒611 〇七七(三三)三九〇〇

聖 觀 音 宗

金龍山浅草寺

宗務 大 森 亮 雅
宗務 長 大 森 亮 雅
東京都台東区浅草二一三一
〒111 〇三(八四二)〇一八一

謹 賀 新 年

念法真教教団
総本山金剛寺

第二代燈主 小倉 靈 現

教務総長 長谷川 靈 信

法務部長 稲 山 靈 芳

総務部長 大 倉 律 現

教化部長 藤 田 良 英

財務部長 前 田 達 現

参 議 小 林 戒 現

同 中 野 幸 現

大阪市鶴見区緑三十四一三二
〒538 〇六(九一一)二二〇一

浄土宗西山深草派

管 長 伴 義 台

宗務総長 山 本 勝 隆
教学部長 伊 藤 玄 法

本山部長 青 木 義 恵

京都市中京区新京極桜之町四五三
〒604 〇七五(二二一)〇九五八

真言宗善通寺派
総本山善通寺

管 長 主 蓮 生 善 隆
宗務総長 阿 部 本 宣
執行 務 山 地 善 真

香川県善通寺市善通寺町六一五
〒765 〇八七七六(二〇〇一一)

臨濟宗建長寺派

管 長 中 川 貫 道

宗務総長 渡 辺 宗 岑

鎌 倉 市 山 之 内 八
〒247 〇四六七(二二)〇九八一

曹洞宗大本山總持寺

貫 主 梅 田 信 隆

横浜市鶴見区鶴見二一一一一
〒230 〇四五(五八)六〇二二

臨濟宗東福寺派

宗務総長 岡 平 篤 道

京都市東山区本町一五
〒605 〇七五(五三一)五二〇七
(五五一)〇三三四

真言宗中山寺派

大本山 中 山 寺

宝塚市中山寺二一十一一
〒665 〇七七(八六)六五一七

真言宗大覚寺派

大本山 大 覚 寺

京都市右京区嵯峨大沢町四
〒616 〇七五(八七一)〇〇七一

謹 賀 新 年

真言宗豊山派
総本山長谷寺

化主 小松原 賢 誉

事務長 高山 宥 進

法務執事 中 賢 乘

総務執事 玉 橋 隆 真

教務執事 梅 沢 栄 好

財務執事 川 俣 海 淳

東京出張所 栗 山 明 憲

奈良県桜井市初瀬七三二一
〒633 01 〇七四四(四七)七〇〇一

兵庫県仏教会

会 長 小 西 日 静

副 会 長 大 谷 昭 世

同 志 水 紫 朗

事務局長 円 成 淳 龍

神戸市兵庫区松本通三二一四〇
法華寺内
〒652 〇七八(五二)二六六八

財団法人
埼玉県佛教会

会 長 山 本 道 隆

副 会 長 江 連 俊 則

同 河 野 亮 永

専務理事 片 山 秀 亮

浦和市高砂四一三一八
埼玉佛会館
〒336 〇四八八(六一)二二三八

京都府仏教会

会 長 東 伏 見 慈 治

副 会 長 松 本 大 圓

副 会 長 田 辺 瑚 海

顧 問 葉 上 照 澄

理 事 長 小 林 忍 戒

事務局長 鶴 飼 泉 道

京都市上京区九太町通千本東入
プラザビル二階
〒602 〇七五(八〇)二五三七

愛知県仏教会

会長代行 宇 佐 美 諦 練

副 会 長 瀬 辺 淳 信

同 松 林 法 泉

理 事 長 市 村 了 法

名古屋市中区東桜二一六五
梅屋寺内
〒461 〇五二(九三)八二二四

日光山輪王寺

門 跡 柴 田 昌 源

執 事 長 鈴 木 常 俊

栃木県日光市内二三〇〇
〒321 14 〇二八八(五四)〇五三一

妙見宗

管 長 野 間 秀 昭

大阪府豊能郡能勢町野間中七一八
〒563 01 〇七二七(三七)〇〇二八

孝道教団

統 理 岡 野 正 貫

副 統 理 岡 野 鄰 子

横浜市神奈川区鳥越三八
〒221 〇四五(四三)二二〇一

謹 賀 新 年

財団法人

仏教伝道協会

発願者 沼田恵範

理事長 葉上照澄

理事 中村元

雲藤義道

松原泰道

有馬清雄

葉上照澄

沼田恵範

監事 芝田徹男

三原信一

東京都港区芝四一三一―一四
〒108 〇三(四五五)五八五一

社団法人

全日本仏教婦人連盟

理事長 山本 杉

事務局 一同

事務局
東京都豊島区北大塚二一―一
大塚プラザビル7F
〒170 〇三(九一〇)一二八九

財団法人

国際仏教興隆協会

名誉総裁 金子日威

理事長 巖谷勝雄

役員 一同

東京都目黒区中目黒五―二四―
五三 祐天寺内
〒153 〇三(七一)七六〇八

財団法人

世界平和同願会

会長 梅村 清明

理事長 山崎 良順

常務理事 三谷 深

事務局長 木藤 已波夫

諏訪市霧ヶ峰角間沢東
一三三三八―二七
〒392 〇二六六五(三)四四五五

近代仏教研究会

理事長 壬生 照順

事務局長 小室 裕充

東京都台東区元浅草一―十七―二
華藏院内
〒111 〇三(八四四)三六四八

豊川閣妙巖寺

福山諦法

豊川市豊川町一
〒442 〇五三三八(六)二〇一一

大本山 高尾山薬王院

貫主 山本 秀順

東京都八王子市高尾町二―七七
〒193 〇四二六(六)一一一五

真理舎

主管友 松諦道

東京都千代田区外神田三―四―一〇
八六八三
〒101 〇三(二五一)八八四二

謹賀新年

真言宗智山派

大本山川崎大師平間寺

貫主 高橋隆天

院代原 教運

執綱 茂木隆応

総務 馬本克美

執事 原隆愿

常務 小林俊一

〒210 川崎市川崎区大師町四一四八
〇四四(二六六三)四二〇

西新井大師
總持寺

〒123 東京都足立区西新井一―一五―一
〇三(八九〇)二三四五

大本山 池上本門寺

貫首 金子日威

〒146 東京都大田区池上一―一―一
〇三(七五二)二三三二

大本山成田山新勝寺

貫主 松田照應

〒286 千葉県成田市成田一
〇四七六(二二)二一一

社団法人

日本仏教保育協会

名誉会長 大谷光照

理事長 秋山秀濟

副理事長 上林映雄

同日野大心

同田中恵康

〒105 東京都港区芝公園四―七―四
〇三(四三二)七四七五

大雄山最乗寺

余語翠巖

〒250-01 神奈川県南足柄市大雄町一―一五七
〇四六五(七四)三二二一

仏教伝道活性化のために

キリスト教から学ぶ

伝道協会の特別講座

去る十二月二、三の両日、「仏教がキリスト教伝道から学ぶこと（カトリック篇）—仏教伝道活性化のために—」と題した特別講座が開催された。

これは、仏教伝道協会が主催し、全仏が後援した催しで、会場の仏教伝道センター（東京三田）には、各教団から伝道布教の担当者約一五〇人がつめかけ、熱心に聴講していた。



熱心に聴講する参加者

二日の午前は、上智大教授門脇佳吉氏による講座「キリスト教の本質と伝道—仏教と対比しながら—」、司会は駒沢大学教授の松本皓一氏。午後は上智大教授高柳俊一氏の「キリスト教伝道史の神学的反省—聖書から現代まで—」、東アジア司牧研究所前所長ネブレッタ氏の「パチカン第二公会議の変革と宣教神学」、上智大神学部山本義治氏の「カトリック学校・病院・施設の宣教使命」という三講座が持

たれ、司会をそれぞれ田丸徳善東大教授、花山勝友武蔵野女子大教授、藤井正雄大正大教授の各氏がつとめた。さらに夕方、六時半からは懇親会「神父さんとの交流」が行われ、参加者から活発な質問が寄せられていた。

翌三日は午前九時からイエズス会神学院院长百瀬文晃氏による「宣教のための神学生教育」ならびに上智大教授越前喜六氏の「日本におけるキリスト教宣教」の二講座が持たれた。司会は坂東性純前大谷大教授ならびに松濤弘道上野学園短大教授の両氏。

この特別講座は、世界的戦略にもとづいて、各国で宣教（伝道）を展開してい

るキリスト教、特にカトリックの「伝道学」を学ぶというのが主眼であったが、各講座の内容は、キリスト教における宣教の意味について教義的に説くものが多く、具体的な方法論に関しては、ややも

の足りない面もあった。しかし、一九六〇年前後に行われたパチカン第二公会議を機会に、宣教のあり方が、他宗教との協力や、地域信仰の特性を許容した伝道方法を認める方向に変化したことが、各講師の口から語られ、その重要性が強調されたことは、カトリックの世界戦略も現在、大きな曲がり角にある点が認識させられた。

また、懇親会の際に、カトリックの祖

三宅島義援金

被災地へ送る

去る十月三日、伊豆七島・三宅島の雄山で起った噴火に対して、救援物資の募

先崇拜に対する考え方や、靖国神社法案に対する質問等も出された。

短時間に、非常にたくさんの内容を盛りこもうとしたため、各講座の話がやや尻切れトンぼになった感もあるが、キリスト教に対する基本的な知識が得られたという点、さらに講座全体を通して、各講師の講演態度が、深い信仰に裏づけされた強い使命感と熱意をひしひしと感じさせるものであり、やはり伝道布教とは体全体で行うものであることを再認識させられたという点でも、有意義な催しだったといえよう。

なお、この特別講座は、伝道協会から出版物になる予定である。

集をお願いしましたところ、別表の通り多額の義援金をお送りいただきました。本当にありがとうございます。さつそく東京都仏教連合会を通して被災地の方々へお送りいたしました。

義援金一覧(到着順)

団体名	金額(円)
神田寺	10,000
総本山大念佛寺	30,000
浅草寺	50,000
石川県仏教会	10,000
群馬県仏教連合会	30,000
曹洞	30,000
千葉県仏教会	20,000
建長寺	10,000
妙見宗務本庁	30,000
真言宗須磨寺派	10,000
浄土宗西山深草派	10,000
高野山真言宗	100,000
時宗宗務所	100,000
新義真言宗務所	20,000
念法真教教団	100,000
黄檗山萬福寺	30,000
西山浄土宗務所	10,000
和宗宗務所	30,000
全仏大会	4,780
岡山県仏教会	30,000
臨濟宗南禅寺派	50,000
和歌山県仏教会	50,000
真言宗大覚寺派	50,000
東京アドリストクラブ	20,000

話題の本

教育図書などの出版でおなじみの学研から、ユニークな仏教雑誌・季刊『恒河』が創刊され、話題をよんでいる。

昨十一月の創刊号をみると、仏教グラフィクスを名のっているだけに、美しいカラー写真やイラストがふんだんに載せてあり、ページをめくっていくだけで楽しくなる。

内容は、まず特集として「ブツタとキリスト」奈良康明師の司会によって中村



季刊 恒河

学習研究社

元氏と北森嘉蔵氏が対談、テーマは「私のなかのブツタとキリスト」。梅原猛氏と山本七平氏の対論は「人間としてみたブツタとキリスト」。その他、瀬戸内寂聴尼の「旅のフォトアルバム」、真継伸彦氏や津島佑子さんのエッセイなど、実に盛りだくさん。

特集以外では、恒河インタビュの第一回として作家の陳舜臣が登場し「曼陀羅の人―空海を語る」。写真家稲越功一氏の「室生寺を撮る」、そして水上勉氏の「鈴木正三への関心」――。

この雑誌は、狭い意味での仏教関係者だけでなく、若い女性やビジネス・エリ

ートなど広い読者を対象としているため、ビジュアルで読みやすいようきめ細い工夫が随所にこらされている。例えば、瀬戸内寂聴尼の連載小説「仏陀」は、岩崎巴人氏の美しい挿画によって色どられ、知らず知らずのうちに物語に引きこまれてしまう。

これまでの仏教雑誌は、ともすれば教理中心のため無味乾燥におちいりがちだし、また、一般のグラフィック誌などが「仏教特集」等を組んだ場合は、単に表面的な内容になりやすく、かえって仏教に対する誤解を助長させるような面も無きにしもあらずだった。

その点、この「恒河」は、深い仏教の叡智を、可能な限り平易に表現しようとする意欲的な試みが、かなりの程度成功しており、編集者の意気込みと、創刊までの周到な準備の跡がうかがえる。また仏教を思想・哲学としてだけでなく、絵画、彫刻、建築、造園、さらに茶道、華道、書道など、日本文化・芸術を形成する基盤という視点から、捉えなおそうとする方針も、多くの読者の共感を得られるのではなからうか。

(A4ワイド判、一五八頁、二二〇〇円、東京都大田区上池台、学習研究社)

幸福な死に方とは

中村元・武藤義一・雲井昭善・佐伯真光・中村尚志・花山勝友・山折哲雄
全日本仏教会／国際仏教交流センター編

現場の医師と第一線の仏教者との歯に衣を着せぬ大
討論！ 原始仏教の死生観や『往生要集』にみる日本
人の死生観を基調にして、いま大きな社会問題になっ
ている安楽死、がん告知、脳死の是非、ホスピス運
動など現実の諸問題にどう仏教者は取組むべきか、死
者を弔うとともに病めるひとびとに励ましと慰めを
与えるのが、仏教者の本務ではないか、等々――50
年先を目ざして仏教者に社会的行動を呼びかける。

四六判252ページ

■定価980円

平凡社 千102
東京都千代田区三番町5
振替・東京8-29639

*本書は当会文化部でも取扱っております。是非文化部
あてお申込み下さい。(代金後払い、送料当方負担)

●現代の病める心にするおいを与える待望のシリーズ ■定価各1,800円
陽 ①観音礼讃 好評発売中
太 ②浄土への憧れ 好評発売中
シリ ③經典の莊嚴 8月刊行
ーズ ④密教と聖なる山 11月刊行

全日仏の囲碁大会

いよいよ来月開催
ふるってご参加を

第一回全日本仏教会囲碁大会の申込締切が近づいています。この大会は、加盟

団体に所属する方々の親睦をはかるとともに、仏教界の囲碁日本一を競い同時に強い方も弱い方も誰でも参加できる画期的な催しです。各宗派、都道府県仏教会から一人でも多くの方々が参加されま

すよう、事務局ではお待ちしております。この大会は、A（五段以上）、B（三、四段）、C（初、二段）、D（初段以下）、E（五級以下）の五クラスに分けて出場者を募っております。どうぞお誘い合せになり、奮ってご出場ください。

日 時 昭和五十九年二月七日十時
会 場 日本棋院（東京・市ヶ谷）
参加資格 加盟団体所属の僧侶
競技方法 オール互先、手合時計使用、持ち時間四十分、時間切れ負け

入 賞 ①クラスごとに優勝者を表彰する。A—会長杯、B—理事長杯、C—事務総長杯、D—国際文化局長杯、E—文化部長杯

②Aクラス優勝者は、後日

坂田日本棋院理事長と記念対局を行い、棋譜を発表する。

③参加者全員に参加賞を贈る。

審判長 坂田栄男日本棋院理事長
懇親会 大会終了後、表彰式を兼ねて行う。

参加費 一万円（懇親会費をふくむ）
締 切 昭和五十九年一月二十日
参加ご希望の方は、全仏文化部までご連絡下さい。

事務局録事

（十二月）

二日 税務委員会

三日 九日 インドネシア仏教会訪問

五日 スリランカ文化副大臣来局

局内会議

八日 東京都仏成道会出席

十二日 ブアティストクラブ成道会出席

十三日 法律相談室

同和委員会

新潟県仏名鑑刊行記念会出席

花まつりポスター

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日

花まつり



|| 広く統一してご利用下さい ||

花まつりの行事は年々盛大に行なわれていますが、さらに全国的に浸透せしめるため、全日本仏教会では写真のような統一したポスターを作成、広くご利用頂けるよう頒布しております。明るい春の野に静かに立って、天と地をさすお釈迦さまの姿は、見る人の心に安らぎを与えることと思います。下記の要領にて頒布いたしますので各県仏、郡市仏、各寺院、幼稚園、保育園などで広くご利用下さい。

◎ サイズ 七四×五二

◎ 定 価 一枚 百円

◎ 送料実費

◎ 申込先 東京都港区芝公園四一七

一四 全日本仏教会文化

部花まつり係

※送付に時間のかかることもありま

すので、お早めにお申込み下さい。毎

年ギリギリの申込みで四月八日に間に

合わないことがありますので……。